

大洲



地域密着型県民チーム ～愛媛FC・マッチシティ～



J1昇格と、地域に根ざした質の高いチームを目指して、愛媛FC

【愛媛FCの沿革】

平成17年にJFL（日本フットボールリーグ）で優勝を決めて、悲願のJ2昇格を果たした愛媛FC。平成19年には天皇杯で、この年アジア王者だった浦和レッズに勝利するなど、141万人の県民サポーターに大きな感動を与えてくれました。

平成21年からは、現在の監督であるバルバリッチ監督がチームを率いて、就任直後の翌年には、リーグ2位タイの失点数で、クラブ史上最高勝率を記録するなど、着実に力をつけています。

【ホームタウン活動】

愛媛FCの選手のみなさんは、県内の多彩なコミュニティ活動に積極的に参加し、地域に住む人たちと一緒に愛媛県全体を盛り上げるために、「ホームタウン活動」に取り組んでいます。

【マッチシティ】

マッチシティとは、県民サッカークラブである愛媛FCと県内自治体が連携し、ホームゲームを盛り上げるイベントのことです。マッチシティでは、その自治体に住んでいる高校生以下の人がC席を無料で招待されます。また、地域の特産品が販売されるとともに、試合前やハーフタイムには、各市町村ゆかりある文化イベントや地域色豊かな子どもたちの出し物（踊り、吹奏楽演奏）なども披露されます。

4月30日（月）は、大洲市のマッチシティ。愛媛FCは、今年「BROBA」（ボルバ・クロアチア語で、戦い、闘争、競争、競合、凌ぎあひ、の意味）をスローガンにシーズンを戦い抜きます。今回は、マッチシティを機に、地域密着型の県民サッカークラブ、愛媛FCを取材しました。



大洲市がマッチシティの愛媛FC対湘南ベルマーレの試合が4月30日(月)、ニンジニアスタジアムで行われました。



物産販売に参加した
じゃこてんや下坂
下坂 ツル子さん

スタジアムの中ではライバル同士でも、一歩スタジアムを出ると、ここはお互いの交流の場です。

愛媛FC、湘南ベルマーレ両チームのサポーターに、当店自慢の手作りじゃこ天を食べてもらいたいと思います。



スタジアムに入場すると、多くのサポーターが詰めかけていて、鳥肌が立ちました。こんなに広くてきれいなスタジアムで、僕もプレーしてみたいと思いました。

エスコートはとても緊張したけど、愛媛FCの選手と手をつなぐことができて、とても感動しました。今日の試合は、ぜひ愛媛FCに勝ってみたいです。



エスコートキッズ
菅田サッカースポーツ少年団
田中 和誠さん

エスコートは少し緊張したけど、わくわく感の方が勝っていました。初めて見たサポーターの応援は、本当にすごいと思いました。

愛媛FCの選手とも、「頑張ってください」と直接会話することができたので、嬉しかったです。

今回、とてもよい経験をさせてもらえました。これからもサッカーの練習を頑張りたいです。



エスコートキッズ
新谷サッカースポーツ少年団
中野 達貴さん

湘南ベルマーレは、前節を終えてJ2首位の強豪チーム。対する愛媛FCは、10位ながら今シーズン、ホームでは無敗を誇ります。この日はあいにくの雨にもかかわらず、3520人のファンが詰めかけました。

序盤から試合を優位に進める愛媛FCは、前半27分に有田選手のシュートで先制。さらに前半38分に、前野選手のヘディングシュートで2点目を追加しました。

後半も一進一退の攻防が続く手に汗握る展開となりましたが、後半23分に愛媛FCの村上選手が退



愛媛FCの先制ゴール

後半の湘南の猛攻



場となり、数的不利になると試合は一転します。

圧倒的にゴール前に押し込まれ、防戦一方の愛媛FCは、試合終盤に1点を返されるものの、湘南ベルマーレの猛追をかわし、2対1で勝利しました。

試合終了後、喜び合う選手たちに、愛媛FCのサポーターたちは立ち上がり、惜しみない拍手を送っていました。

これで愛媛FCの順位は9位。(5月1日時点) 今季こそ、上位進出を期待させる、素晴らしい内容の試合でした。

愛媛FCは、とことん地域密着型のチームです！

「ホームタウン活動」

「ホームタウンは愛媛」を合い言葉に、愛媛FCの選手のみなさんは、地域に貢献するさまざまなコミュニティー活動に参加しています。



2



1



4



3

- 1 献血
- 2 e-Tax体験啓発
- 3 三世代ふれあいレクリエーション
- 4 大洲サッカー教室



愛媛FC MF17
 大山 俊輔 さん
しゅんすけ
 (埼玉県出身)

愛媛FCに入団して5年目になります。単身で愛媛に来ていますが、近所の人たちは温かく接してくれてありがたく感じています。

地域活動では、サッカースクールや人権啓発活動などに参加しましたが、中でも印象的なのは、小学生と一緒に給食を食べてコミュニケーションを図る給食先生です。子どもたちとふれあいが持て、楽しかったです。

今、チームは自分たちのサッカーができていて、悪い状態ではありません。しっかり点を取って勝ちにつなげていきたいと思います。

僕は昔からサッカーが好きで、小さい頃からJリーガーになるという夢を追いかけていました。愛媛の子どもたちにも、夢を持って「今」を一生懸命過ごしてほしいと思います。



愛媛FC DF7
 前野 貴徳 さん
たかのり
 (愛媛県出身)

バルバリッチ監督は、一つひとつのプレーに関して細かく指導してくれます。勝利が求められる这个世界では、本当にいい監督だと思います。

練習では、監督が求めていることを基本としながらも、その中に自分たちのアイデアを盛り込むようにしています。この意識の繰り返しが、勝負時での最良の判断に繋がると感じています。

僕たちは、J1に行くという気持ちを常に持ち、全力でプレーをしています。今後も、サポーターのみなさんと一緒に、勝利の喜びを共有できたら嬉しいです。

大洲市のみなさんもスタジアムに来て、一緒にサッカーの楽しさを感じてください。

これからも、みなさんの応援をよろしく願います。



愛媛FC
イヴィッツァ・バルバリッチ監督

来日して2年8か月になります。愛媛FCの監督に就任する前は、ボスニア・ヘルツェゴビナという国の代表コーチ、また、同国1部リーグのFCシロキ・ブリエグの監督を務めていました。

初めて愛媛県に来た時は、人も優しく町も整然としていて、とても好印象だったことを覚えています。

現在、チームの状態は満足できる水準にありますが、決定力不足という点は否めません。いかにチャンスを作るかが課題だと思っています。

チームの目指すべきサッカーは、パスをつなぐ、早い攻守の切り替え、相手陣内でプレッシャーをかけることです。そういったサッカーをチームとして達成するため、重点を置いて練習をしています。試合を観ていただくと、我々の目指すサッカーに気がついてくれると思います。

選手たちは愛媛県内で、さまざまな地域活動に取り組んでいます。愛媛FCは愛媛県を代表するチームであり、地域活動を通して県民のみなさんと交流することは、大変有益なことです。ファンやサポーターだけでなく、一般の人たちと交流することは大切なことだと思います。愛媛FCは、愛媛県の代表として、象徴的な存在になりたいと考えています。そのためには地域貢献はもとより、試合の成績も上げて、クオリティの高いチームを作っていきます。

サッカーは世界で最も人気の高いスポーツの一つであり、スポーツの域を超えて実社会の中に浸透しています。愛媛FCというチームが愛媛県の重要な核となるため、チームとして地位向上を目指します。そのためには、県民のみなさんの協力が必要不可欠です。みなさんの温かい応援と協力を願っています。

取材を申し込んだ4月25日(水)、この日も愛媛FCの選手たちは、レインボーハイランド(松山市)のグラウンドで、厳しい練習に汗を流していました。

取材に応じていただいたバルバリッチ監督は、温厚で物静かな印象を受けましたが、練習では大きな声を出し、ジェスチャーを交えて選手を指導していて、その姿は鬼気迫るものがありました。

県民サッカークラブとしてJ2に昇格し、今年で7年目を迎えた愛媛FC。地域に密着した、さまざまな活動を続ける選手たちを、みんなで応援しましょう。

